

(様式4)

令和4年3月15日

富山県教育委員会教育長 殿

富山県立高岡支援学校  
校長 沢 武 淳 一

令和3年度学校総合評価を別紙(様式5)とともに提出します。

### 令和3年度 学校総合評価

#### 6 今年度の重点目標に対する総合評価

今年度は、三つの重点課題を設定して取り組んだ。重点課題に対する学校の自己評価は、様式5に記載のとおりであり、全ての重点課題について目標を達成したと考えている。

学校評議員からは、以下の意見をいただいた。

- (1) 日々工夫しながら手洗いのスキルアップに取り組んでいる。進んで丁寧に洗おうとすることが物事に主体的に取り組む意欲にもつながるであろう。また、手洗いのように日常的にすることは慣れてくると雑に行う可能性があるので、手洗い方を定期的にチェックするとともに、興味関心を高め、楽しく手洗いのスキルを身に付ける工夫をさらに重ねてほしい。
- (2) バス運行会社とのきめ細かなコミュニケーションを基に連携を図り、運行日誌や連絡記録票に記述のある問題やバス会社からの要望等の解決に対応した。運行日誌や連絡票から教員間でも情報共有し、保護者からも協力が得られている。今後も安全を確保するために、問題への具体的な対応策を共有財産として蓄積して引き継いでいくことも重要である。
- (3) 自己評価表、事後アンケートにより、明確な数字で評価・分析できたことはよかった。より改善点を明らかにするために、様式に自由記載欄を設けるとよい。実際に相談後に対象児童生徒に適切な指導・支援が実施されたかが大切である。さらに評価の方法を工夫するなどして相談後のフォローアップにも繋げてほしい。

#### 7 次年度へ向けての課題と方策

- (1) 全校で同様の手洗いチェック表を用いることで、手洗いに関する個々の実態を次年度の担当者に引き継ぐことができるようになった。これを利用し、手洗いに関する個々の目標を明らかにするとともに、家庭とも連携し、褒めて自信を持たせながら正しい手洗いの仕方の習得を目指して継続的に取り組みたい。
- (2) スクールバスを利用する児童生徒は毎年一定程度入れ替わりがあるため、引き続き、運行日誌や連絡票を活用した情報共有、運行会社や保護者、放課後等デイサービスとの密なる連携を図っていきたい。また、問題発生の未然防止や早期解決に役立てるように、これまでの対応事例を蓄積したり、マニュアル化したりすることについて検討していきたい。
- (3) 自己評価表、事後アンケートの様式を改善して活用するとともに、事後の聞き取りで児童生徒等への支援につながったかを評価し、有効だったアドバイスを次の相談に活用できるシステムの構築を目指していきたい。今後も地域のセンター校としての期待に応えられるよう、学校コンサルテーションの視点に基づいた教育相談の充実に努めていきたい。

(様式5)

令和3年度 高岡支援学校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学校生活	
重点課題	感染症予防対策の推進～手洗いのスキルを身に付ける～	
現 状	<p>新型コロナウイルス感染症の拡大に伴いマスクの着用や換気等に加え、手洗いの重要性が高まっている。本校には基礎疾患を有する児童生徒も在籍していることから、一人一人の予防対策が大切である。</p> <p>昨年度からの取組により登校時や授業の後等、教員の呼びかけに応じて手洗いをする習慣は少しずつ身に付いてきていると思われる。しかし、石けんを付けてすぐに洗い流すなど感染症予防対策としての手洗いの仕方はまだ不十分な児童生徒が見られる。汚れを可視化する教材等を活用し、洗い残しやすい所への意識を高め、感染予防に効果的な手の洗い方の定着に向けた取り組みを進めていく必要がある。</p>	
達成目標	児童生徒の手洗いのスキルの向上	手洗いに関する指導の実施
	手洗いチェック項目のポイント向上率 90%	各学級1回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童生徒の実態に応じた効果的な手洗いの習慣化に向けた指導の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・手洗いチェック表による実態把握及び効果の検証（6月、10月）</li> <li>・手洗手順表や手洗いチェッカー等の有効な教材の利用</li> </ul> </li> <li>○手洗いの啓発活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健給食委員会による、校内放送やポスター掲示、「手洗いの達人」の表彰</li> </ul> </li> <li>○教材等の整備や紹介 <ul style="list-style-type: none"> <li>・手洗いチェッカー、手順表、手洗い歌などのCDを活用しやすいよう整備</li> </ul> </li> <li>○家庭との連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導の記録の共有、手洗いチェッカーなどの教材の紹介</li> </ul> </li> </ul>	
達成度	手洗いチェック項目のポイント向上率 88%	各学級1回以上実施
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の手洗いの実態を手洗いの手順表に沿ったチェック項目で把握し、個に応じた手の洗い方の指導を手添えや言葉掛け等で継続して行った。また、手洗いチェッカーを活用し、洗い忘れを視覚的に認識する機会も設けた。</li> <li>・感染症対策としての手洗いの必要性についても折に触れて伝えた。</li> <li>・6月に指導前のスキル評価、11月に指導後のスキル評価を実施した。11月の評価では、6月より洗える箇所が増えていた。また、教師の言葉掛けがなくても自ら洗う児童生徒も増えている。</li> <li>・毎月初めに手洗い週間を設け、保健給食委員会の委員が放送で月の目標を呼びかけた。手洗いのポイントを1つ掲げ、重点的に取り組み、洗い忘れやすいポイントへの意識を高めるように促した。</li> <li>・学校で行った手洗いチェッカーの結果や手洗いの様子を家庭に伝え、家庭での手洗いのスキルの向上や意識づけにつながるように情報の共有を行った。家庭でも手洗いを確認する機会となり、共通理解が図られた。</li> </ul>	
評価	B	手洗いのスキルの向上については、88%の児童生徒にポイントの増加がみられた。個々の実態に応じた手洗い指導の実施により手洗いへの意識が高まった。
学校関係者の意見	手洗いへの興味関心を高めるための工夫をさらに重ね、スキル維持のために定期的にチェックを行う等、継続的な取組が大切である。家庭とも連携し、褒めて自信を持たせながら、進んで手洗いに取り組めるようになっていくとよい。	
次年度へ 向けての 課題	「手洗いチェック表」を活用し、手洗いのスキルの向上に向けた取組を継続する。また手洗いにかかる実態を丁寧に把握し、個に応じた指導を家庭とも連携しながら進めていく必要がある。	

重点項目	学校生活	
重点課題	安心安全なスクールバス運行のための体制整備を図る。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の90%以上が、6系統のスクールバス（新湊・小杉・高岡・戸出・福岡・氷見）を利用して通学している。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年6月からスクールバス乗車率50%以下となるよう増便を運行し、現在登校便は11台、下校便は9台運行している。</li> <li>・児童生徒が落ち着いて乗車できるよう、車内には介助員が2～1名同乗しているが、シートベルトをはずしたり、騒いだりするなど安全な運行に支障を来す場合も少なくない。また、迎えない、おう吐などのトラブルの発生や道路工事等により運行経路やバス停を変更することもありスクールバス担当者がバス運行会社や教員・保護者と連絡を取り合い、日々問題解決に奔走している。</li> <li>・気象状況や災害発生時等の運行条件の悪化による緊急対応が多様化している。また運行台数が増えたり運行会社が替わったりすることで、共通理解をその都度行う必要がある。</li> <li>・日々の安全なスクールバス運行を目指し、運行日誌や連絡記録票、連絡会議等を基にして関係者とコミュニケーションを密にししながら、問題の解決に当たっていききたい。</li> </ul>	
達成目標	① 運行日誌やスクールバス連絡記録票に記述のある問題の解消率	② 運行会社からの要望や問い合わせの解消率
	100%	100%
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学期はじめの添乗指導</li> <li>・運行日誌の回覧</li> <li>・スクールバス運行連絡会の開催</li> <li>・緊急時の対応の整備</li> <li>・連絡帳の把握</li> </ul>	
達成度	98%（不適応行動対応5件未解消）	94%（運行会社の要望1件未解消）
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎対応件数 278件</li> <li>・不適応行動 213件</li> <li>・迎え対応 37件</li> <li>・その他（忘れ物・保護者からの苦情等） 28件</li> <li>・運行日誌と連絡記録票を週ごとに学校内で回覧した。児童生徒に関することは学校で指導したり介助員に支援方法を伝えたりして解消に取り組んだ。保護者や放課後デイサービス等と係わることは、電話で状況を伝えたり現場に出向いたりして、再発防止対策に努めた。</li> <li>・連絡帳から児童生徒と保護者の不安や不満を学校で共有し、早期に対応した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎対応件数 18件</li> <li>・バス停変更 9件</li> <li>・運行経路変更 3件</li> <li>・その他（必要物品・運行会社変更・故障等） 6件</li> <li>・運転手とは、学校到着時に必ずコミュニケーションを図るようにし、道路やバス停の状況を把握しよりよい運行ルートやバス停の位置の変更に速やかに対応した。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・携帯電話を活用し、アクシデントが起こったらすぐに学校からその対応を指示した。</li> <li>・必要に応じて教員がバスに乗車したり現場を確認したりして、運行会社と学校が一体となって対応するようにした。</li> <li>・介助員や運転手の困りごとを早期に対応するため、直接聞き出し、関係教員で共有し解決に向けて取り組んだ。</li> </ul>	
評価	A	1学期には204件、2学期92件の事案があり、すべてに対応し解消に向け取り組んだ。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運行会社との連携を密にすることで共通理解が図られ、信頼関係を築くことができたことは素晴らしい。</li> <li>・トラブルやアクシデントの分類をしてその対応策を共有財産として蓄積することが大切である。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運行会社との連携、教職員との情報共有に努め、トラブルやアクシデントの対応策をマニュアル化し対応していく必要がある。</li> </ul>	

重点項目	その他		
重点課題	学校コンサルテーションの視点に基づく教育相談の充実		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校では校長から指名された4名の特別支援教育コーディネーター（以下「Co」）が中心となり地域の教育相談に対応している。近年、特別支援学級を担当して1～2年目の教員からの相談依頼が増加している。昨今の教員の大量退職に伴い、今後も特別支援教育の経験が少ない教員からの依頼の増加が想定されることから、訪問相談の評価方法を確立し、本校のセンター的機能の充実に努めたい。</li> <li>本校の教育相談は、学校コンサルテーションの形をとっている。学校コンサルテーションの評価には①コンサルタント（Co）自身の評価、②コンサルティ（担任等）からの評価、③コンサルテーション全体の流れ（システム）の評価を行うことが望ましいとされている。（国立特別支援教育総合研究所ガイドブックより）現在、本校では①は未実施である。Coがコンサルテーションの視点に基づいた教育相談を行っているか、振り返る機会を作る必要がある。②は昨年度よりアンケートを実施している。今後もアンケートを参考に、教育相談の在り方について検討していきたい③も未実施である。本校では、基本的に2回の訪問相談としているが、問題が解決しない等の場合は、継続して訪問相談を行う。1回目の訪問相談から2回目の訪問相談までに要した期間の平均日数は、2019年度は16.9日、令和2年度は24日となっている。コンサルテーションに要する時間を短くすることが早期の問題解決につながると考える。</li> </ul>		
達成目標	①自己評価表の記入率	②訪問相談後のアンケートの満足度	③1回目の訪問相談から2回目の訪問相談までに掛かる期間の平均日数
	100%	90%以上	21日以内
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>文献等から学校コンサルテーションの評価についての情報を収集する。</li> <li>自己評価表を作成し、本校のCoが記入する。</li> <li>事後アンケートを作成し、小・中学校等が記入し送付してもらう。</li> <li>相手校と相談しながら、2回目の訪問日を3週間以内で設定する。</li> </ul>		
達成度	①100%	②100%	③100%
	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪問回数10回×2名</li> <li>自己評価表提出数20枚</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要な情報を得ることができたとの回答100%</li> <li>支援を具体的に進めることができそうとの回答100%（回収数12）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均日数15.9日</li> </ul>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>①国立特別支援教育総合研究所ガイドブックや他の特別支援学校の評価表を参考に、自己評価表を作成し、本校のCoが2回目の訪問相談後に記入した。</li> <li>②対象児童生徒の担任等に記入してもらった事後アンケートの集計を行った。</li> <li>③訪問日については、相手校と相談して設定したが、学校行事等の都合で遅くなったケースもあった。2回目の訪問日が1ヶ月後になったケースでは、対象児童の状態が変容し担任の主訴も変わっていたことから、できるだけ早く2回目の訪問日を設定することが望ましいと思われる。また、自己評価や事後アンケートを踏まえて、校内Co会議で改善点を話し合い、以後の教育相談に生かした。</li> </ul>		
評 価	A	訪問相談の評価方法を整理することができた。 学校コンサルテーションの視点に基づいた教育相談を充実させるための課題を見付けたり、方策を考えたりするよい機会となった。	
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価やアンケート調査票を取り入れることで、明確に評価・分析できたところがよかった。より改善点を明確化するため様式に自由記載欄を設けるとよい。</li> <li>訪問相談後のフォロー体制をより充実させていくことを望む。</li> <li>クライアント（児童生徒等）への支援につながったかを達成目標としてほしい。</li> </ul>		
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手校のニーズを把握したり、Coの資質を向上したりできるように、自己評価表や事後アンケートの様式を改善して活用していきたい。</li> <li>事後の聞き取りを通して児童生徒等への支援につながったかを評価し、有効だったアドバイスを次の相談に活用できるシステムを構築していく必要がある。</li> </ul>		